

1. 補助金と自治体の関係について

(1) 赤字路線に対する自治体助成の現状と今後の見通し

①関係する自治体の数

単位:%

	関係自治体なし	1自治体	2自治体	3自治体	4自治体	5自治体	6~9自治体	10自治体以上	合計
主に都市部	48.9	28.0	9.8	2.4	2.4	1.2	6.1	1.2	100.0
主に地方部	13.5	34.0	17.0	7.1	6.4	4.3	8.5	9.2	100.0

②制度概要(都市部・地方部共通)

- ・自治体の補助要綱による。
- ・原則欠損補助である。
- ・国の補助要綱に準じている。

③補助金額

単位:%

	補助金なし	~500万円	~1000万円	~3000万円	~5000万円	~1億円	~3億円	3億円以上	合計
主に都市部	63.0	3.2	3.2	5.3	5.3	4.2	7.4	8.4	100.0
主に地方部	25.4	6.4	5.1	13.4	9.6	15.3	17.2	7.6	100.0

④今後の見通し

乗合(定観を含む)

主に都市部	<ul style="list-style-type: none"> ●路線の再編成等工夫を凝らし、可能な限り地域のバス交通維持に務める。 ●自治体の財政が厳しく補助金の減額や打ち切りが予想される。 ●補助金継続をお願いしていく。 ●補助金が満額得られず赤字がかさめば路線廃止せざるを得ない。
主に地方部	<ul style="list-style-type: none"> ●自治体の財政が厳しく補助金の減額が予想され、運行回数減回や車両の小型化等経費削減を求められる。 ●自治体の財政が厳しく補助金がなくなる可能性があり、路線廃止せざるを得ない。 ●自治体の理解が得られない。(私企業にバスを利用しない市民の税金を投入するのはおかしいとの見解) ●乗合バスは縮小し、コミュニティバスや乗合タクシーに転換していこう。 ●年々利用客が減少し結果として、補助金が増加していく。

高速(空港バスを含む)

主に都市部	●自治体から要望があった場合は公的補助をお願いしていきたい。
主に地方部	●赤字がかさめば廃止せざるを得ないので、都市間バス・空港連絡バスにも欠損補助をお願いしていきたい。

(2) コミュニティバスと競合していますか。

また、競合している場合コミュニティバスをどう考えますか。

① 競合関係

単位：%

	競合路線を持つ会社	競合路線を持たない会社	合計
主に都市部	40.4	59.6	100.0
主に地方部	41.8	58.2	100.0

② 競合している場合の考え方

主に都市部	<ul style="list-style-type: none">●棲み分けができていますので問題ない。●棲み分けが必要である。(同一区間で運賃が異なる等、利用客の混乱を避けるべき)●一般路線バスが蚕食されており公正な競争とはいえない。●これ以上コミバスが拡大するのであれば、一般路線バスは路線撤退や減便せざるを得ない。●自治体の安易な事業計画を抑制する必要がある。
主に地方部	<ul style="list-style-type: none">●棲み分けができていますので問題ない。●棲み分けが必要である。(同一区間で運賃が異なる等の利用客の混乱を避けるべき)●一般路線バスが蚕食されており公正な競争とはいえない。●競合ではなく協調すべきである。(協調することで利用客増につながる。)●コミバスと競合している一般路線バスの減収補填を考えて欲しい。●これ以上コミバスが拡大するのであれば、一般路線バスは路線撤退や減便せざるを得ない。●受益者負担を徹底しワンコインはやめるべきである。

(3) 自治体が運営するバスの運行を受託していますか。
また、受託している場合、どのような課題がありますか。

①受託の有無

単位：%

	受託している	受託していない	合計
主に都市部	40.0	60.0	100.0
主に地方部	46.5	53.5	100.0

②受託している場合の課題

主に都市部	<ul style="list-style-type: none"> ●一般路線バスとの競合問題。(運賃が異なるため) ●乗務員確保の問題(正社員運転士では収支が合わないため、OB運転士(再雇用運転士)を募集しているが人手が足りない。) ●自治体の負担を減らす為に事業者も努力が必要である。 ●入札による過当競争。 ●年度当初の契約であり、燃料高騰等の経費増の要求をしても応じてもらえない。 ●ワゴン車・マイクロバス等を貸与された場合、バリアフリー法除外であったり、ワンマン機器の設置に苦慮する。
主に地方部	<ul style="list-style-type: none"> ●入札による過当競争。 ●年度当初の契約であり、燃料高騰等の経費増の要求をしても応じてもらえない。 ●年次契約であるため次年度の業務量が確定しない。(長期の計画がたてられない。契約切れ後の雇用問題、余剰車両問題 等) ●自治体は住民の意見だけではなく、事業者の意見も聞いてほしい。 ●自治体財政担当は、一方的に前年より委託料(落札予定価格)を下げてくるので、燃料高騰等を理解して欲しい。 ●自社カラーのバスで受託する場合、運賃体系の違いに住民が混乱する。

(4) 公的助成の問題点。

乗合(定観を含む)

<p>主に都市部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 協調補助であるため、補助を受けられなかったり、補助が十分でない場合がある。(国の単独補助を要望) ● 補助対象・補助要件が限定的である。(補助が適用されない赤字路線の補助拡充を要望) ● 制度が複雑な上、申請までの調査作業が複雑、申請から報告までの作業が非常に煩雑である。 ● 補助金が自治体の予算の範囲内であるため、事業者の持ち出しが発生している。(欠損分の完全補填を要望) ● 赤字補填では活性化につながらない。(需要喚起等の維持方策努力ができない) ● 貸切事業には補助がない。
<p>主に地方部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 補助対象・補助要件が国の定めた単一的なモノ(キロ程、輸送量、運行回数 等)であり、地域の実情にあっていない。(補助が適用されない赤字路線の補助拡充を要望) ● 協調補助であるため、補助を受けられなかったり、補助が十分でない場合がある。(国の単独補助を要望) ● 合理化をすると補助金が減ってしまう。(事業者の努力が反映されない) ● 補助金が自治体の予算の範囲内であるため、事業者の持ち出しが発生している。(欠損分の完全補填を要望) ● 制度が複雑な上、申請までの調査作業が複雑、申請から報告までの作業が非常に煩雑である。 ● 自治体の補助金(総務省特別交付税)について、自治体担当者が内容を理解していない。また、総額交付とのことで交付額の内訳が把握できないとよく聞かされる。(自治体担当者への指導と特別交付税の内容明記を要望) ● 補助金の支払いが年払いで資金繰りに苦慮する。(毎月支払を要望)

高速(空港バスを含む)

<p>主に都市部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体から要望があった場合は、空港連絡バスについても補助して欲しい。 ● 自治体を跨ぐため補助割合が煩雑になる。(国の単独補助を要望)
<p>主に地方部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市間高速バスに補助金がもらえない。(通勤通学・買い物の足であるため補助要望) ● 地域住民の足という観点から外れているので公的補助はおかしい。

日期	星期	上午	下午	晚班
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72				
73				
74				
75				
76				
77				
78				
79				
80				
81				
82				
83				
84				
85				
86				
87				
88				
89				
90				
91				
92				
93				
94				
95				
96				
97				
98				
99				
100				

